



Clorie Design 団談会の紹介

私達 Clorie Design の建築設計やデザインに対する思いや考え方を秋田で活躍されているお二人のクリエイターとの座談会を通してお伝えします。

greenpiece 「グリーハピース 金森 弘至」
DreamPhoto 「ムーラムフォト 菅原淳」
ClorieDesign [クロード・サイン 池田 宇史]

池田 職種は違えども、何かを創造して形にする『トザイ』とどう共通のワードでつながっているお一人と、どういう感じでトザインに向き合ってはるのかを語り合いたく、この場を設けさせていただきました。

金森 これまで、プライダルの会場を私が装飾して菅原さんが撮影したり、モテルさんを装飾して撮影してもらったりと一緒に一つの仕事を関わったり、一つの作品を作る機会はたくさんありました。が、それそれがそれを持つ場、役割の中で動くのが当たり前だったので、改めてトザインや仕事に対する考え方を話したりすることはなかったので、聞いてみたいですね。

池田 私は、建築や空間デザイナーとして「空間」をより創るか仕事をしていながら、自分が撮影花で空間を創る金森さんと近いのかなと思いつのですが、その空間を写真という一枚の作品にして、菅原さんから見て、今まで何と「映し」とつかなかっただけで見れる人、撮る人によって違うたりするものですか？

菅原 それは確実に違いますね。例えば、今いる11人で、「この部屋の写真を自由に撮ろう」となつたり、多分全然違う写真になると感じます。その人の感性で全然違うものにならうというのが、写真の面白さといふ。仕事としても、正解がないことだと思ひます。

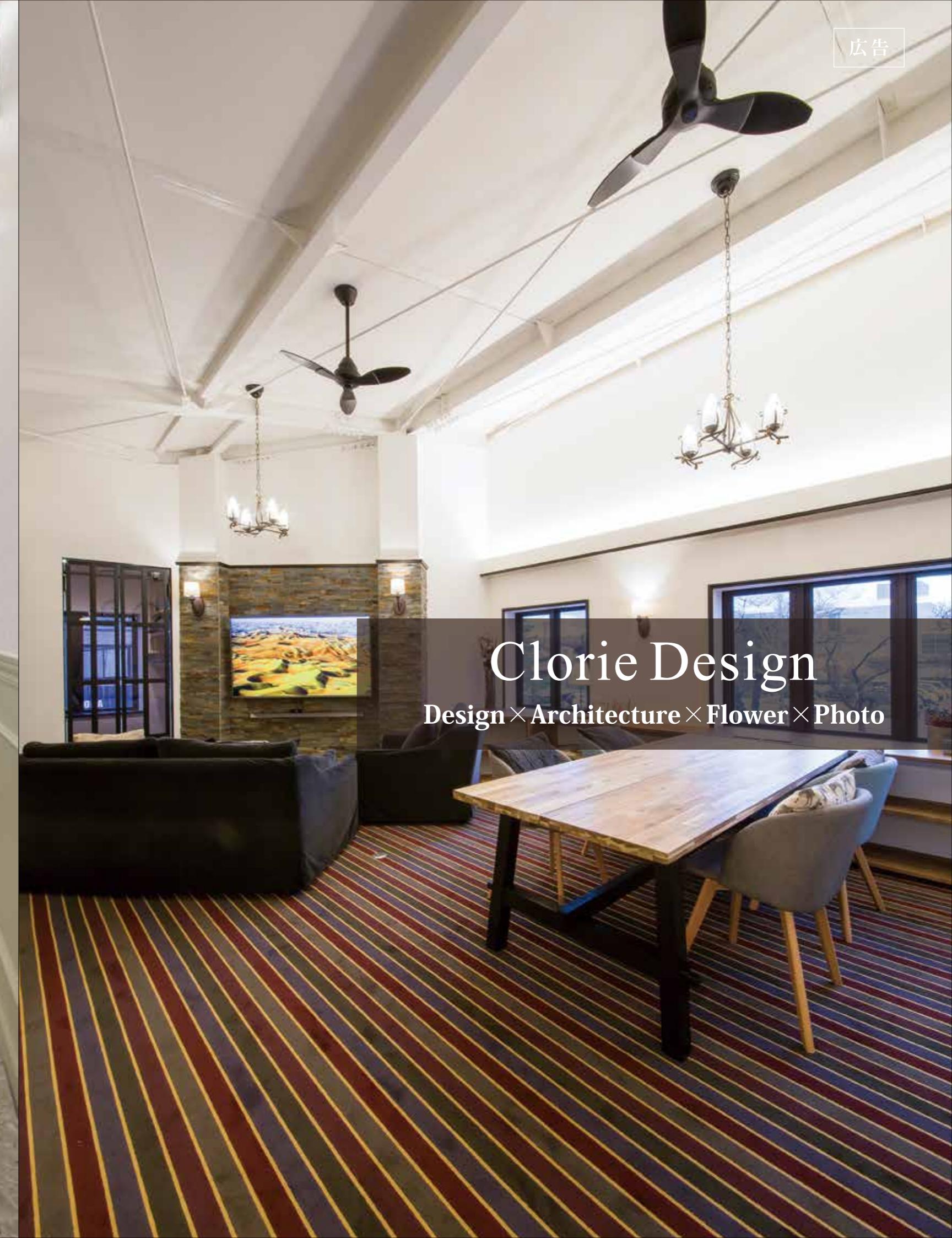
池田 確かにそうですね。空間を創るとき、例えば、私は照明も大事にしてくるのですが、人によって照明の設計がまるで違います。人が設計した照明が映し出す影を見て、「これは計算なのかな？」とか、「影の濃さまで考えて、いたとしたらすごい天才だな」とか。もしかしたらたまたま偶然かもしませんが、そういうことを考えるのは楽しいですね。

金森 受け取る側の印象も人それぞれで、制作側の意図に気付いてくれるかなど非常にそういうわけではないのですが、基本的に制作者つてみんなマイアですよね。結局仕事つてマイアになれるかってところだと思ってますよ。

池田 その通りですね。私、マイアーシー行つたときなんか、ひたすら壁と床を触つて歩くんでもすよ。

金森 それは間違いなく建築マイアですね。（笑）

菅原 私の会社つてカマラマン集団なので、依頼者がいて依頼者の求める画を撮るというのが大前提なんですよね。プライダルも、BtoBのお仕事もそうなのですけど、求められたものを撮つた上で、自分の「色」をちょい乗せたりするんです。（笑）



Architecture



建築デザイン

ClorieDesignInc.
代表
池田 宇史

1980年生まれ
建築デザイン専門学校卒業後建築設計・施工・商品開発・プロモーションなど経験。2018年株式会社 ClorieDesign を設立、2名で建築設計・デザイン業に取り組んでいる。

Flower



フラワーデザイン

greenpiece
代表
金森 弘至

1976年生まれ
ロブションのウェディングや海外でのイベント・フラワーディスプレイ等で活躍。2014年に株式会社 greenpiece を立ち上げ、ドライフラワーデザインを手掛ける。

Photo



フォトグラフ

DreamPhoto Inc.
代表
菅原 淳

1981年生まれ
仙台の大学在学中に写真の魅力にはまり、フィルムカメラでの撮影をスタート。2015年株式会社 DreamPhoto 代表取締役に就任、現在は7名のプロカメラマン集団を束ねる。

座談ご協力会社様のご紹介

Dream Photo

〒010-0001 秋田県秋田市中通 3-4-39
電話番号 018-884-7728



FLOWER DESIGN greenpiece

〒010-0802 秋田県秋田市外旭川八幡田 151-1
電話番号 018-838-1118
営業時間 10:00 - 17:00
定休日 不定休



Design × Architecture × Flower × Photo



INFORMATION

Clorie Design Inc. [クロリデザイン]
秋田県秋田市保戸野鉄砲町3-30 2F
TEL 0188385330
MAIL info@clorie.jp
営業時間 土日祝日を除く午前9時から午後5時まで



Clorie Design

#建築設計 #空間デザイン
#新築 #リノベーション #一般住宅 #店舗 #事務所

クロリデザインオフィスにご興味いただきました方、
クロリデザインのショールームをご内覧なりたい方、
Mail,Instagram,Websiteからご予約くださいませ。
お会いできます事を楽しみにしております。



金森

私は、時代とともに変わっていたかなと思います。

自分をガンガン出せば楽だし気持ちいい。花を始めた頃なんて、引出しまらないからお客様の希望に合わせるしかなくて、常に仕事に怖さが伴っていました。「これ気に入ってくれるかな?」「喜んでくれるかな?」とか

クエスチョンマークを常に持ちながら仕事をしていた気がします。やっと最近、「気に入られなくても、好きになってもらわなければならない!」だから、もっと自分を出そう!って思えるようになつてきました。それまでは、自分を出しているのかもわかりませんでした。とはいっても、ライバルやお客様からの依頼だと、条件や制約があつて、お客様も組織たりするいろいろな意見が出てくるので、そこの鬱いはみんな常にありますけどね。

池田

みんな共通して「自分の何かは入れたい」っていう

思いがあるのがデザイン業、クリエイト業だと思うのですよね。「必ず、何かやつてやろう」ではないんですけど。

菅原

そうですね。付け加えると、僕らはどちらかというと

素材を作っているという感覚なんですね。写真で最後の形になるかっていうとそうではなくて、写真が何かの素材になつて、例えば雑誌のページに組まれたりとか、広告になつてキャプションが入つたりとか、いろいろなものが組み合はさつて一つの作品になるので、どっかか

いうと「写真はデザインの方ではないのかな」って思うこともあります。デザイナーの人がいて、僕らの写真をさらに上のレベルを持って行ってくれて、作品になるっていう感覚ですね。

金森

そうですね。付け加えると、僕らはどちらかというと

素材を作っているという感覚なんですね。写真で最後の形になるかっていうとそうではなくて、写真が何かの素材になつて、例えば雑誌のページに組まれたりとか、広告になつてキャプションが入つたりとか、いろいろなものが組み合はさつて一つの作品になるので、どっかか

いうと「写真はデザインの方ではないのかな」って思うこともあります。デザイナーの人がいて、僕らの写真をさらに上のレベルを持って行ってくれて、作品になるっていう感覚ですね。

池田

そうですね。出来上がってテンションが上がったとしても、もしそこに誰も人がいなかつたら「何のために?」という気はしなくもない……でも逆もあって、今は使われなくなつた建物や古くなつた建物とか、それはそれでまた面白いんですね。昭和初期の建築とかも結構攻めたデザインを見ると、昔の感覚でこういうものを作りたいかだのなとか、それとも「私はこういうのを頼んだら作つたんだ!」とか、誰にも聞けないシチュエーションだからこそ、その建物ができたときの背景を考えると面白いですよね。

菅原

デザインという仕事は、まさに『人』がいないとはじまらない仕事です。そのことをお一人とお話してきて本当に有意義でした。ありがとうございました。

最後に、この三人の仕事で、自分の仕事以外でやってみたい仕事を聞いてみたいのですが、

金森

私は写真ですね。作品を作ることも多いし、それを撮影してもらって、できあがつた写真という作品を多く見ていて、当然、相談しながら撮影しているのですが、自分が撮れるようになつたら、どんな写真になるんだろうな」と思つたりしているので。

菅原

私は建築です。住宅雑誌が創刊され、その撮影をするまでポートレートの撮影が多かつたのですが、住宅をはじめとする建物を撮影するようになつて、建築の面白みを感じています。学生の頃に建築という仕事があるなんて知りもしなかつたので、知ついたら自指していたかもしれませんね。

池田

そう思つていただけて建築に携わっている者として嬉しいです。ちなみに私は花ですね。空間を創つていて、花や植物でその空間がさらに素敵なものになつていく。そんなところでまで考えて建築に携わつていきたいです。今日は本当に参考になるお話をたくさん聞けました。ありがとうございました。

